



発行 KOA 森林塾 (事務局) 0265-70-7065 編集 早川清志 題字 島崎洋路

『色を揃える、目を揃える、必要?』

『通年コース第十一回開催報告「見学」』

間伐などで切り出された木はどこへ行ってどうなるのか、一日しか取れない見学の日、有賀建具店さんと長野県森林組合連合会の伊那木材センターにお邪魔して面白い話をいろいろお聞きしてきました。

午前中は有賀建具店さん。親方の恵一さんは、長野県が県産材の利用促進のために進める「森世紀工房」に参加されている知事認定のマスターでもあります。作業場に伺った時、私たちがのために並べてくれた、カラマツのアームチェアは長野市の知事室にある

のと同じ物でした。県のホームページでも「文化・伝統を生み出す長野のエース」のひとりとして紹介され、そのための後継者育成にも力を注いでおられます。三十七年間の木との付き合いの中で体得された木の性質や特徴などを見本を手にとりながらいろいろ話してくれました。「アオの入ったアカマツが好きなんです」というお客さんもいると



木の見本を前にいろいろな蒔蓄話



数えてみたら一万枚超??

という話にびっくり。木も千差万別、それぞれの特徴があるように人もいろいろだなぁと感じます。建具や家具を作る側の常識として「色や目を揃える」と言う事があるので、親方は「常にそれが必要かどうか、わかんないですよね」とおっしゃっていました。

スタッフの野村さんと小野寺さんにいれて頂いたコーヒーと、女性陣に大好評だった奥様の手作りケーキに舌鼓を打った帰り際、乾燥中の板材の在庫を見せてもらってその量にびっくり。「近くの山の木を大量消費したい」という親方の気概を感じました。

親方の製品は「有賀さんの食器棚」等楽天市場にも出ていますので、木の大量消費に是非ご協力ください。



有賀さんの七色積み木セット。ほ、欲しい!!!



地球温暖化防止のために木をしっかり使いたいものです。



ヒノキ柱材の極山。とにかく安い

て田口さんが駆けつけてくれました。無理言ってごめんなさい。ここは県森連の五つある木材センターのひとつで年間十九回の市売りが開かれています。毎回数百立方の材の選木、極積、検尺などの実務は田口さんと横森さんの二人でがんばってこなしているそうです。材の平均単価は十年前のざつと半値。世の中の景気は少し上向きなのですが、もう一声、二声ほしいところです。模擬入札でジェイソンが落札したヒノキ柱材は一本が二千円そこそこ。いまがチャンス。保証金の十万もって丸太買いに行こう!!



競争入札。今日の買い方はシブチン揃い

9月18日(土) 見学

8時30分 鳥崎先生の小屋に集合 講師挨拶、丸太価格の話の後、車に分乗して有賀建具店さんへ

9時30分 着。途中コーヒータ임을はさみ、樹種による材の特徴などの

落札結果

極番	品柄、規格、末口	本数	材積	落札業者	落札価格	指値(相場)
1	ヒノキ3m 16-18	150	12.81	ジェイソン小野	32,000	26,000
2	ヒノキ4m 18-22	24	3.634	小名ハウス	29,200	23,000
3	ヒノキ6m 16-18	28	5.24	工房増井	38,000	33,000
4	ヒノキ3m 22	2	0.29	ヤジマ工務店	38,000	28,000
5	スギ4m 30-34	6	2.262	ジェイソン小野	28,000	18,000
6	アカマツ4m 32	1	0.41	丸金遊山組	19,000	15,000
7	クリ3-5m 18-24	4	0.655	ホテル田園	40,000	29,000
8	アカマツ7m 32	1	0.786	ヤジマ工務店	22,500	17,600
9	カラマツ4m 24-26	37	9.03	エコショップ田中	16,000	13,000
10	ケヤキ3m 38	1	0.433	ハツタリホーム	103,000	46,700

11時30分 お話を聞く
作業場裏のおび
ただしい板在庫を見せて
もらい、大芝高原へ
12時 池の横でお弁当を食
べた後、伊那木材セン
ターに向かう
1時30分 伊那木材セン
ター着
センターの概要説明の

後、土場の極山を見て、模
擬入札。まあまあの値で
競り落とされた。
4時 小屋に戻り解散。有
賀建具店の皆さん、木材
センターの皆さん、お忙
しいところありがとうございました。

『付加価値がつく枝打ちを』

人がまだ猿だった頃の名
残なのでしょうが、木登りは
幾つになっても楽しいもの。
今回は猿から少しだけ進化
して、棒とロープを使ったぶ
り縄で木に登り、枝打ちに挑
戦してもらいました。

まずはロープの端末のア
イ加工。ロープは端に輪があ
ると何かと便利ですので覚
えてみましょう。そしてこれ
に手木を通してぶり縄の出
来上がり。小屋横での練習で
は、小名川さんなどが随分高
くまで上ってしまっって降り
るのに一苦労。持ち帰って練
習するのはいいですが、街の
真中の公園などでは控えた
ほうがいいかも。

たように、枝打ちは一般的に
は厳冬期を除き、「彼岸から
彼岸まで」つまり九月の末か
ら三月末頃まで、そして厳冬
期はなたなどの刃物が痛み
やすいのでできれば避けて、
ということでした。

枝打ちをする場合、枝座
(枝隆)を傷つけないように
打つのが最近のやり方で、こ
れを大きく挟り取るとボタ
ン材の危険があるとお話
もありました。われわれ素人
が枝打ちをする場合は、まず
のこぎりを使いますので、枝
座を残す方法は好都合とい
う事にもなります。

一日の仕事量として、保科
先生は一本三メートル打つ
として、ま、五十本が目安か
な、とおっしゃっていました。
このことをインストラ後藤に
聞いたら、実績は三十本くら



ぶり縄での枝打ちは慣れないと足が棒になる



保科先生の枝打ちデモ、この道半世紀



そこここにセミ人間、木登りは面白いね

通年コース第12回

9月19日(日) 枝打ち

8時30分 小屋集合。講師
挨拶の後、早速ぶり縄つ
くりにかかる。まずは

12時 平地林の中村山林
1時 昼食
ロープのアイ加工。イン
ストラ後藤の見本の後、割
差してアイづくり。慣れ
れば簡単だがちよっと苦
戦の方も。手木を通して
ぶり縄完成。小屋横で、イン
ストラ川島のぶり縄登り
デモ。見ていると簡単そ
うだが、少しお腹が出て
きた面々にはつらい

へ。保料先生の枝打ちについて講義の後模範演技先生の夕はひげが剃れるくらい刃がつけてある



3時 金田さんが、降りるのに失敗し足にけが、病院へ
4時 小屋に戻り解散

参加者/江上さん、小野沢さん、角田さん、梶永さん、金田さん、小名川さん、佐々木さん、笹原さん、神保さん、杉村さん、田中さん、服部さん、平さん、堀さん、増井さん、湯沢さん、園田さん、矢島さん、長坂さん、長岡さん 講師/保科先生、島崎先生 スタッフ/川島、後藤、坂野、早川

次回以降の予定

専門コース第3回開催

10月1日、

3日(木)日)

三回目の開催です。すこしインテグレイトした倒し方をしてみましょう。いろいろな道具も使って。でも基本は

安全に確実に。8時30分小屋に集合。先生方の担当は初日です。

第13、14回

10月16、17日(土、日)

測量、製図および

林道設計

一日目が小屋裏で測量、そしてそれを図に落とし、二日目は林道を設計しこれを歩道として開設して見ます。ともに8時30分小屋に集合。両日とも島崎先生の担当です。

集中コース秋の部

10月29日、

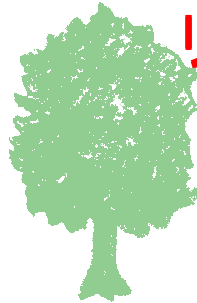
31日(木)日)

森林塾のエキスを三日間で一通りやってみます。調査から間伐、伐出まで。初日が両先生の担当です。

ただ今塾生募集中です。十月十五日締め切り。HPからの申込みも可。

リレー通信

森林の未来は明るく
中神 嘉紀



こんにちは、今夏集中コースに岐阜県より参加させていただきました。今年猛暑なのか信州の島崎先生の山小屋付近の森も暑く、日頃の運動不足の体にはこたえ、良い汗をたくさんたくさん流し、帰る頃には体が軽く体調も回復してました。講師の先生方、スタッフの皆様にはほんとうに親身にご指導頂きましてありがとうございます。

通信七号に田口憲二さんが「木に対する敬意と呼ばれている自分がある」と投稿されてみますが、私も木に対して畏敬の気持ちを持つようになってきています。会社に就職してから十年間、営業の仕事で東京都内にいました。体の調子が悪くなると奥多摩の山の中へ出掛けた記憶があります。山へ

行つて木の中にたたずむとなぜか体の調子が良くなってしまうのでした。

木は一度生活をする場所が決まると二度と動けないのと同じ場所で五百年、千年と生き続ける事は驚きです。生きていく数百年の間には大きな台風、地震、雷、山火事等大きな災害を数多く経験しているはずですし、多くの木との成長競争、風雪、害虫等の被害もあつたはずで、樹齢千年の木に出会うとほんとに神仏の前に引き出されたかの如く、やすらぎと暖かさ、そして畏敬の念にさいなまれます。

裏木曾の旧神宮備林で樹齢千年のひのきの巨木に出合った時、全身が震えました。そしてその後も何度か出掛けておりますが、一昨年の大雨による林道の通行制限により現在は入林出来ない状況となっております。その

巨木にたどり着くまでの林道の両側には木曾五木を始め、桐、桂ほかいるいな樹種の巨木が茂り、猿、リスなどの動物も豊富でした。木曾のき林は、戦国時代末期より江戸時代前期の城郭の建設ラッシュによる強度な伐採の結果生まれた禿山に、天然に発生した多量の稚樹が生育し、尾張藩が木材資源の減少を食い止めるために「ひのき一本首一つ」と言う森林保護政策として、伐採を禁止する留山制度(西暦一六六五年)を行つたため出来た美林と言われています。

木に対する畏敬の念は、木はたとえ枯れたり枝が折れたりしても、微生物の力によつて土に返り、その際一切の有害物を出さず、成長する際は地球温暖化物質の二酸化炭素を吸収し固定化するすぐれ者で、治山治水の要であることに對しても抱いて

います。今日記録的な豪雨での山崩れ、沢の崩壊、河川の氾濫など頻繁に発生してありますが、その原因は戦後人口林にされた山で、

れぬまま放置され、表土が流失し、保水力が大幅に落ちた事が主原因と考えられます。



木材は天然の素材であり、地球環境にとつても負荷の少ない材料で、法隆寺の材は千三百年経過した今なお存在しており、人間が適切な管理さえすれば、再生産可能な資源です。森林は人間、ひいては地球環境にとつて最も大切な二酸化炭素の吸収・固定源で、貯水池と大地に張つた根により土壌を抱え込んでいるため山崩れや土石の流出を防いでおり、人々にやすらぎを与え、野生鳥獣類を保護し、生態系維持のためにも大きな役割をはたしています。

このような母なる森林が皆さん良くご存知の如く、現在大変な状況に置かれています。日本では戦後の拡大増林の際に植えられた人工林が、手入れされないまま放置されているのが目立ち、外からは森の様相を呈していても、中へ入れば表面の土壌が流失した、光の差し込まない暗い単層林で、これが森なのかと思えるぐらい貧弱なものとなっています。



海外では、日本では全く考えられない方法(ナバーム弾

による木材の搬出にじやまな森林を焼却する事他)で森林の破壊・消滅が加速している、その作業を指揮しているのは日本の企業と言われ、おり、その作業を指揮しているのは日本の企業と言われ、おり、その作業を指揮しているのは日本の企業と言われ、おり、その作業を指揮しているのは日本の企業と言われ、



三日間、頼りない都会の森林ボランティアのオバサンを相手に親切なご指導感謝します。初めて持つチェーンソーをつきつきりて指導していただき、「女性の方には一番大きな木を切ってもらいます。」とこやかに言われ、木が無事倒れるまでの時間は緊張と冷や汗いっぱいでも長く感じました。林業技術だけでなく、「長年生きた木から

考え、森林塾こそこれからの人材を育てる大切な林業の総合教育機関と思えます。その森林塾に参加させていたいただきました事は今後の自分にとってほんとうに有意義な事でした。これから可能な限り参加させて頂きたく、ご指導等宜しくお願い致します。

命をいただく」という森で生きるころも伝えていたことが貴重で、六十年生きたアカマツが倒れたとき、「ありがとう」と心で手を合わせる気持ちになりました。またその土地の森はいったいどんな森に育ってゆくのかが二十年後、五十年後、百年後の姿が見える目を持ちたいと思えました。東京に帰ってからついで、職場(中学校の教員です)の木の枝を切つてブリナワの復習をしてしまっ私でした。

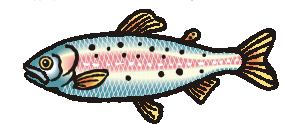


ふもとでちょうど全国的に松枯れが問題となっていた時に植物学を学びました。現在の都知事が当時の環境庁で薬剤散布を全国的に進めていたとき、教授が「枯れた木を伐採する方が大事なのに」と嘆いていたこと、授業で聞いた「草刈り山」という言葉に込められた山村と森の関わりに納得したことが思い出されます。また「害虫はひたすら駆除」という考えが主流で生態系全体を考へるといふ声は少数でした。就職してからは山の見えない東京は人間の住むところではない、ときなり山登りに目覚め母の故郷の信州の山に通いました。(私にとって「ズラ」文化圏・おやき文化圏は第2のふるさとです。)

一方で何か都市の自然保護に関われないかと自然観察会のボランティアを続けました。自分もふくめ都会育ちの人間にとって都市の中の自然に目を向け「住めば都」の認識で観察会や野外遊びからスタートしました。その一方でたくさん観察して「物知り」になっていくことだけではないのかと

ア活動に参加しています。いろいろな寄り道をし、学ばせていただいたことはいま私が森に通っていることに全てつながっていると感じます。人間は水も空気も食べ物もすべて森に養ってもらっている一生物であること、経済に工業に偏りすぎた価値観は山と共存していたときの少し振り返ればまだ手が届く距離にあるものにもう一度近づけないものかと願っています。

そのニジマスは、作業していた別荘のご主人がお昼に食べられたもので、とてもおいしかったです。毎日決まった時間に魚を落として行ってくれば便利なのにあと思つた次第です。



自分勝手さを猛反省。しっかり「天の声」を聞いたトウのたつたジャンヌ・ダルクは即行動。タイミングよく命じられた出張先で尾鷲のヒノキの間伐材で内装をした校舎を見学。熊野の林業家の宿に泊まり、一晩林業の話聞き、森を案内してもらいました(おいおい、教育関係の視察じゃなかったのか)。本で偶然見つけた「森林インストラクター」を受験し、都会人が山村に関わる場を探しました。現在東京都の大自然塾という森林ボランティア

ついで先日、とある別荘地の中で作業していたところ、突然空から道の上に何か落ちてきました。鈍い音がしたので、変だなと思い何かと近づいて見てみると魚でした。それも傷一つ無いニジマス。そのすぐ後バサバサと飛び去る鷹の姿がありました。

近くにはニジマスの養殖場があるので、そこから捕まえてきたのでしょうか。木の上で一休みしていたのか、食べようとしていたものか。突然我々のたてた音に驚いて、獲物を落として逃げ去ったもの

投稿大歓迎。ご意見、ご質問、ご要望、事務局まで。

TEL 0265-70-7065
FAX 0265-70-7994
E-mail: ki-hayakawa@koanet.co.jp
sh-sakano@koanet.co.jp
携帯:090-4463-0062(開催日)
URL http://www.koanet.co.jp

